

西海ブロック水産業情報

NO. 72 (平成23年1月～3月)

その他(水産利用加工、水産経済関係、災害等)

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>メダイ鮮度保持試験(神経抜きの効果に係る試験) サゴシの成分分析(一般成分・遊離アミノ酸・脂肪酸) サゴシ加工残渣を原料としたエキス天然調味料の開発</p>	<p>●豊前海 ・豊前海一粒かきの各種イベント・キャンペーンを実施。</p>	<p>●玄海 【情報発信】 ・携帯電話による海面水温分布情報及び沿岸域(3地点)表・中・底層の水温・塩分情報を発信。 ・漁海況情報、漁場環境情報、貝毒PL情報等をHP及びFAXで発信。 【その他】 ・出品量(1級品と2級品合計)は、9.4万匁(対前年比117%)であったが、平均単価は859円/匁(同95%)と低調であった。</p>	<p>○研究技術開発 1. 水産物流通加工強化支援事業 2. 水産加工原料確保のための新原料開発 3. 連携プロジェクト イカ肉の高度有効利用に関する研究 4. 戦略プロジェクト 県産冷凍すり身の新たな製法とその利用法の開発 5. 魚介類の出荷前蓄養と環境馴致による高品質化システム技術開発 6. 血合肉褐変防止技術を基盤とする国際競争力の推進と海外市場展開 7. 地域イノベーション創出研究開発事業「新規海水浄化装置を用いた活イカ輸送システムの開発」</p>	<p>特記事項なし</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>通電加熱装置を用いた水産食品の加熱及び殺菌技術の高度化研究において、エキス流出が少なく旨み成分が多いシラス干し加工品開発を図るため、県内漁業者及び水産加工業者を対象に公開実験を行った。</p>	<p>・1月下旬の新燃岳噴火に伴い、周辺のニジマスやヤマメ等の淡水養魚場に降灰があったが、電話連絡で状況を確認したところでは、降灰による大量斃死は無かった。 ・2月上旬の現地調査では、養殖場の溶存酸素及びpHを調査したところ異常な値は観測されなかったが、池水の濁りがあり、養殖業者は池入れ水量を増やして、降灰による濁りを低減していた。 ・降灰を採取し、水道水に0.5～3.8%(灰重量/水100ml)まで濃度を変えてpHを測定したところ、濃度が高くなるに従って混合した時のpHは少し低くなる傾向(濃度3.8%でpH6.46)が見られたが、1晩静置後の上澄液のpHは7.20程度と混合時に比べて若干高めであった。 ・今後、雨天時や土石流によって降灰が急激かつ大量に飼育池に流入した場合の大量斃死の発生が懸念される。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>特記事項なし</p>